

安来市森林・林業・木材産業振興ビジョン

概要版

3 ビジョンの推進体制(産官学民協働の場づくり)

本ビジョンの推進にあたり、産官学民の連携による「安来市森林ビジョン推進協議会(仮称)」を設置します。協議会では、各種取組の進捗状況や課題を共有、適宜見直しを行い、「オールやすぎ」による将来像の実現に向けた取組を推進します。



4 将来の展望

本ビジョンの実現に向け、ビジョンの期間を3つのフェーズに区分しロードマップとして示します。なお、このロードマップは固定的なものではなく、社会情勢や技術革新のスピードに応じて柔軟に見直しを行います。特に5年ごとの中間見直し時には、各段階の目標や施策を精査し、必要に応じて前倒しや延長を調整します。



初期目標の達成

- ・推進協議会の定着
- ・森林資源台帳の運用開始
- ・公共施設の木造化方針策定

中間目標の達成

- ・林業DX・スマート林業定着
- ・民間建築への木造化波及
- ・路網整備の加速

ビジョン達成

- ・安来ブランドの確立
- ・森林公益機能の最大化
- ・持続可能な循環利用の実現

第1期:基礎固め期(2026~2030年)

協働の仕組みづくりと優先課題への対応の着手

第2期:本格展開期(2031~2040年)

施策の全面展開と成果の顕在化

第3期:最終期(2041~2050年)

持続モデルの確立と次世代への引継ぎ

2050年までのロードマップ

1 ビジョン策定の背景・目的

将来像(目指すべき2050年の安来市の森林の姿)

森林の多面的公益機能を十二分に發揮しつつ、持続可能な形で木材生産も行われている理想的な姿



安来市の市域の7割を占める森林は、水源涵養や土砂災害の防止、木材の生産、地球温暖化の原因となるCO₂の吸収や生物多様性の保全などといった公益的機能を発揮し、私たちの暮らしの根底を支えており、その重要性は益々高まっています。

しかし、長年にわたる木材価格の低迷や担い手不足により、森林資源が十分に活用されないまま、管理が行き届かず荒廃する森林が今後増えていく恐れがあります。

そうした中、2050年という長期的な視点を持った上で、森林・林業・木材産業の目指すべき将来像とその実現に向けて、今後「オールやすぎ」で取り組む方向性などを市民・事業者・行政で共有するため、本ビジョンを策定しました。

2 将来ビジョンの全体像

■基本理念・基本方針・基本施策

目指すべき2050年の将来像の実現に向け、以下の基本理念・基本目標・基本施策を基に、「オールやすぎ」で取組を推進します。



■当面の取組

本市において特に緊急性・重要性が高い課題に対し、当面の間、以下の4つの取組に注力していきます。

①重点整備計画の 策定と実行



防災・水源林の重点的な整備を適切に実施するため、森林資源データ等を活用し、整備計画の優先順位付けと整備に取り組みます。

②集約化モデル ケース事業



計画の策定・実行に取り組みます。集約化・基盤整備の加速化のため、森林経営管理制度によるモデルケースを設定し、集約化と路網計画の策定・実行に取り組みます。

③木材利用促進 基本方針と 行動計画の策定



公共・民間建築における木材利用を促進するため、安来市における「木材の利用促進に関する基本方針及び木材利用行動計画」の策定します。

④林業の担い手 確保・定着・育成 総合支援事業



特に人手不足が顕著な林業事業体に対して、担い手確保・定着のための総合的な支援策を展開します。